

**製品名: VEGF-A ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19771**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、その他、ウサギ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	21kDa(monomer),42kDa(dimer)

**抗原情報**

遺伝子名	VEGFA
別名	VEGFA; VEGF; Vascular endothelial growth factor A; VEGF-A; Vascular permeability factor; VPF
遺伝子 ID	7422.0
SwissProt ID	P15692
免疫原	抗血清はヒト VEGF-A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 110-159

**背景**

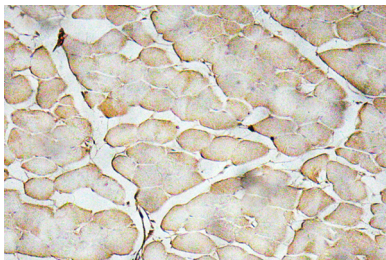
この遺伝子は PDGF/VEGF 成長因子ファミリーのメンバーです。ジスルフィド結合ホモ二量体として存在するヘパリン結合タンパク

質をコードしています。この成長因子は血管内皮細胞の増殖と遊走を誘導し、生理的および病的な血管新生に不可欠です。マウスでこの遺伝子を破壊すると、胎児期の血管形成に異常が見られました。この遺伝子は多くの既知の腫瘍で発現が上昇しており、その発現は腫瘍の病期および進行と相関しています。POEMS 症候群 (Crow-Fukase 症候群とも呼ばれます) の患者では、このタンパク質の高レベルが認められます。この遺伝子の対立遺伝子変異体は、1 型糖尿病の微小血管合併症 (MVCD1) およびアテローム性動脈硬化症と関連付けられています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写変異体も報告されています。また、血管新生、血管形成、および内皮細胞の増殖に活性な成長因子として、代替翻訳開始機能の証拠も存在します。内皮細胞の増殖を誘導し、細胞遊走を促進し、アポトーシスを阻害し、血管の透過性を誘導します。VEGFR1/Flt-1 受容体、VEGFR2/Kdr 受容体、ヘパラン硫酸、ヘパリンに結合します。ニューロピリン-1 はアイソフォーム VEGF-165 および VEGF-145 に結合します。アイソフォーム VEGF165B は VEGFR2/Kdr に結合しますが、下流のシグナル伝達経路を活性化せず、血管新生を活性化せず、腫瘍の増殖を阻害します。誘導: 成長因子、サイトカイン、ゴナドトロピン、一酸化窒素、低酸素症、低血糖症、および発癌性変異によって制御されます。オンライン情報: VEGF エントリ,類似性: PDGF/VEGF 成長因子ファミリーに属します。細胞内局在: VEGF121 は酸性で、自由に分泌されます。VEGF165 はより塩基性が高く、ヘパリン結合性を有し、かなりの割合が細胞に結合したまま残りますが、大部分は自由に分泌されます。VEGF189 は非常に塩基性が高く、分泌後も細胞に結合し、ヘパリンと細胞外マトリックスに強く結合しますが、ヘパリン、ヘパリナーゼ、またはプラスミンによって可溶性形態として放出されることもあります。サブユニット: ホモ二量体; ジスルフィド結合。PIGF とのヘテロ二量体としても認められます。組織特異性: VEGF189、VEGF-165、VEGF-121 アイソフォームは広く発現していますが、VEGF206 と VEGF-145 はまれです。

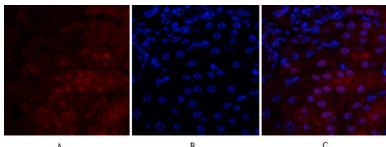
## 研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用、mTOR、VEGF、接着斑、がんの経路、腎細胞癌、膵臓癌、膀胱癌。

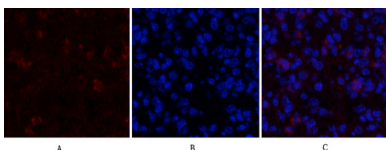
## 画像データ



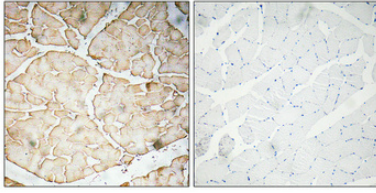
パラフィン包埋ヒト骨格筋組織における VEGF-A 抗体の免疫組織化学分析。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, VEGF-A ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, VEGF-A ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



パラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高温高圧トリス EDTA (pH8.0) を用いた。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。